

茨城県陶芸美術館 企画展

利休に見せたいッ！

現代の茶陶

プレス・リリース

平成29年1月2日(月)～3月12日(日)



桑田卓郎 白金彩灰釉壺 2010年

茨城県陶芸美術館

〒309-1611茨城県笠間市笠間2345番地(笠間芸術の森公園内)

TEL 0296-70-0011/FAX 0296-70-0012

<http://www.tougei.museum.ibk.ed.jp/>

1 展覧会名 現代の茶陶
利休に見せたいッ！

2 開催趣旨

A：一言でいうと（100文字）

茶陶とは、茶碗や水指など、お茶席で用いられるやきものの総称です。本展では、戦後の重要無形文化財保持者から、新進気鋭の若手作家の作品まで、現代における茶陶の多様な展開を132点の作品によってご紹介します。

B：もう少ししていねいにいうと（160文字）

茶陶とは、茶碗や水指など、お茶席で用いられるやきものの総称です。本展では、美濃の荒川豊藏や備前の金重陶陽など、自身の活動する産地で桃山陶の復興を志し、独自の世界を築いた重要無形文化財保持者に始まり、茶陶の伝統に縛られず、新しい感覚の作品を生み出す新進気鋭の若手作家まで、その多様な展開を132点の作品によってご紹介します。

C：詳細にいうと（574文字）

茶陶とは、茶碗や水指など、お茶席で用いられるやきものの総称です。桃山時代に千利休が侘び茶を大成すると、楽焼や美濃焼、備前焼など国産の茶陶が隆盛を迎えます。江戸時代には大名、商人が茶事を嗜み、京焼や萩焼をはじめ茶陶の生産が各地に広がりました。

近代では、昭和の始めごろから、美濃の荒川豊藏や備前の金重陶陽などの、伝統的な産地で活動する個人作家たちが、自身の表現としてその制作に取り組みはじめます。

戦後、これらの作家が重要無形文化財保持者(人間国宝)の認定を受けたことや、日本伝統工芸展の開催などをきっかけに、個人作家による茶陶の制作はますます広がりを見せます。志野の鈴木藏や備前焼の伊勢崎淳は、産地の伝統的な技法に、新たな造形表現を取り入れた作風を展開します。

さらに近年では、産地や窯元などの背景を持たない作家たちが、茶陶を自身の創作へと積極的に取り入れています。竹村友里や桑田卓郎ら若手作家は、茶碗の形状を活かしつつ、流れるようなフォルムで側面を形作った作品や、伝統的な梅華皮(かいらぎ)の技法を肥大化した作品など、これまでの茶陶の形や制作上の制約を逆手に取った、新しい感覚の茶陶を生み出しています。

本展では、重要無形文化財保持者から現代の若手作家まで、戦後の茶陶の展開を132点の作品によってご紹介します。進化を続ける茶陶の「今」を、ぜひご覧ください。

3 展示構成

出品総数 132点

第1章 古典陶磁の復興

第2章 戦後の茶陶と各地における展開

第3章 近年の多彩な表現

4 主な作品（別添作品写真キャプション）

①三輪壽雪「鬼萩割高台茶碗」1998年 当館蔵

②福島武山「赤絵観瀑文茶盃」2015年

③十五代樂吉左衛門「焼貫黒茶碗 青狸」1993年 当館蔵

④齋藤まゆ「鳥」2015年

⑤水元かよこ「うさみみPOP」2016年

⑥東香織「かい」2016年

⑦植葉香澄「色絵水指」2010年 当館寄託

⑧佐藤典克「縹(より)」2013年

5 会期・会場等

会 期：平成 29 年 1 月 2 日(月)～3 月 12 日(日) (61 日間)

会 場：茨城県陶芸美術館 地階企画展示室

開館時間：午前 9 時 30 分から午後 5 時まで (入館は午後 4 時 30 分まで)

休 館 日：月曜日 (ただし 1 月 2 日(月)、9 日(月)は開館し、10 日(火)休館)

6 主催：茨城県陶芸美術館

助成：芸術文化振興基金

7 観覧料

一般 720(570)円 高大生 510(410)円 小中生 260(210)円

* () 内は 20 名以上の団体料金。満 70 歳以上の方、障害者手帳、療育手帳をお持ちの方及び付き添いの方(ただし 1 人につき 1 人まで)は無料。土曜日は高校生以下無料。

8 関連催事 *詳細はイベントチラシ、ホームページ等でご確認下さい

○「本展出品作家と当館館長による座談会」

日時：平成 29 年 1 月 28 日(土) 13:30～15:00

場所：当館 1 階多目的ホール(聴講無料)

講師：佐藤雅之氏、穂高隆児氏、澤田勇人氏、Kei condo 氏、金子賢治(当館館長)

定 員：120 名(先着順)

○ワークショップ

(1)「手びねりで世界に一つだけの茶碗を作ろう」

※展覧会チケットが必要です。

日時：平成 29 年 2 月 4 日(土) 10:00～15:00

場所：当館地階研修室

講師：東香織氏(本展出品作家)

内容：手びねりによって、参加者一人一人が自分好みのオリジナル茶碗をつくるワークショップです。

定員：20 名(先着順)

申込方法：電話または FAX にて事前申込

参加費：無料 対象：高校生以上

※受付開始日：12 月 23 日(金)午前 9 時から(休館日は受付できません)

(2)「わび茶でおもてなし」 ～茶道未経験の方へのワークショップ～

日時：2 月 11 日(土)・3 月 5 日(日) いずれも 13:00～15:00

場所：当館屋外 板谷波山 田端旧宅・工房(再現)

講師：海老澤宗香氏、沼尻宗真氏

内容：家での抹茶の点て方をはじめ、「わび」の感性を花を生けながら体感していただきます。

定員：各日とも 10 名(先着順)

申込方法：電話または FAX にて事前申込

参加費：1,000 円 対象：高校生以上

※受付開始日：12 月 23 日(金)午前 9 時から(休館日は受付できません)

○呈茶会

(1)「本展出品作家の茶碗で一服」

日時：1月22日(日) 正月 祝いの席
2月25日(土) 節分 福々の席
3月12日(日) 上巳 桃の席 いずれも10:00～14:00

場所：当館屋外 板谷波山 田端旧宅・工房(再現)

内容：出品作家の茶碗でお茶を飲んでみませんか？ 波山旧宅(再現)を季節の室礼で彩ります。

定員：各日とも先着50名(事前予約可能。詳細はお電話等でお問い合わせ下さい)

席主：海老澤宗香氏、沼尻宗真氏

参加費：500円

(2)「高校生による呈茶会」

日時：平成29年2月12日(日)(笠間高校茶道部)
2月26日(日)(水戸桜ノ牧高校茶道部)

場所：当館地階オープンギャラリー

内容：県内高校の茶道部員がたてたお茶をお楽しみください。

定員：50名(先着順)

参加費：200円

※日程、参加校等に変更になる可能性があります。

○音声ガイド

会期中は入口にて、県内高校の放送部員がナレーターをつとめる音声ガイドの貸し出しを実施しています。

使用料：無料

協力：水戸第一高校・水戸第三高校・笠間高校 各放送部

○ギャラリートーク ※展覧会チケットが必要です

担当学芸員が展覧会をご案内します。1月14日(土)・3月4日(土)13:30～

9 連絡先

茨城県陶芸美術館 〒309-1611 笠間市笠間2345番地(笠間芸術の森公園内)

TEL.0296-70-0011 / FAX.0296-70-0012

(展覧会担当) 学芸課 副主任学芸員 飯田将吾 e-mail: iida.syougo@post.ibk.ed.jp

学芸課 首席学芸員 今瀬佐和 e-mail: imase.sawa@mail.ibk.ed.jp

(広報担当) 企画管理課 首席学芸主事 中島 淳 e-mail: kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp

※プレスリリース用写真データ

広報担当の E-Mail アドレス kouhou@tougei.museum.ibk.ed.jp までご連絡いただければ、すぐにデータをお送りいたします。写真を掲載する際には“4 主な作品”に記載されている、それぞれの作品キャプションを併記してください。



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧